

Long Stay 心得帳

海老名 芳行

会報 67 号(2008 年秋期号)に投稿した「ロングステイ心得帳」の全文です。
会報には、紙面の都合上、全文を掲載することが困難なため抜粋して掲載されています。

30 年以上前から仕事にかこつけて様々な国や地域に 1～3 カ月の Long Stay を続けてきました。勿論、Long Stay という言葉もありませんでした。処変われば何とやらで、行く先々それぞれ異なったルールや習慣があり興味深いばかりでなく、時には戸惑ったり、失敗をやらかしたりしてその国、その土地に慣れ親しむまでには、それなりの時間と心構えが必要になるものです。そんな中から、失敗談や旅先で注意する事、知っておくと便利な事などを思いつくままに記してみたいと思います。

クラブの会報などを拝見していると、皆さんおしなべて極めて精力的に行動されておられるのには、ただただ敬服するばかりですが、生来が怠け者の私の Long Stay の特徴は「何も目的を持たない、ただ気の向くままに行動し、予めスケジュールなどは決めない」という事かも知れません。日本では時間刻み、いや分刻みの仕事や生活に追われてきた日常から逃れるためにはこういう Long Stay の形があっても良いと自分勝手な解釈をしています。

1) Long Stay は安上がりだけを考えるな

リタイアして現職時代のように定期収入も多くなければ当然のことながら、いかに安く Long Stay をするかも大切な知恵かも知れません。

長旅を、エコノミーで耐えれば滞在中の部屋代ぐらいで済ませようと思ってしまう事も事実ですが、1 年に一度か二度の旅はせめてゆったりしたビジネス・クラスでというのも領けます。

部屋だって、快適に何ヶ月かを過ごすのにはそれなりのコストが掛かります。私も、過去に何回も部屋選びで失敗しました。この夏のカナダも、現地に住む知人の紹介だからと安心していきついでいざ着いてみたら、街中で新築なことは良いとしても、アメニティー、部屋の広さ、清潔さなど今までで最悪の Stay を強いられる羽目になりました。家でも同じ Bed で寝る習慣がないのにセミ・ダブル一つではどうにもならず、知り合いから寝具をお借りして家内はリビングに寝る羽目になりました。部屋の数や Bed の数、レイアウトについて何回か問い合わせたのですが、はっきりした返事が得られないまま、紹介者が紹介者だから大丈夫だろう位に安易に考えていたのが失敗でした。所帯持ちや女性ならともかく若い男性のアパートなどゆめゆめ借りない様にして下さい。

決める前に部屋の向きや階数、部屋数、Bed の数、トイレ、バスの数、ウオシュレット

トは付いているか、タオルはどの位揃えているか、Furnished と言ってもどんな家具がどの位揃っているか、フル・キッチンと言っても具体的に何がいくつあるかなど確り確かめておくべきです。年間契約なら、5万か7万の部屋を30万以上も出して借りるのでからしつっこいくらいに細かくチェックが必要です。

宿泊する部屋は、Long Stay 中のベースキャンプですから、部屋がどちらを向いているか、日当たりはどうか、部屋からのViewはどうかなども事前にチェックする事です。パティオしか見えないようでは閉塞感にとらわれます。

ハワイなどでは Ocean View と Mountain View では部屋の値段がかなり異なるように長滞在では部屋からの眺めも大切です。

キッチン用品も基本的にお茶わんやお椀、箸、急須やお醤油の小皿などの和食器もありません。和食党の私には食器も大事な生活用品です。お風呂も外国のものは殆どいわゆる洋式のバスタブです。伊豆の温泉の中で生まれ育った私には溢れるお湯にたっぷり浸かって浴槽の外で体を洗う習慣が染み付いていますから、カーテンを張ったバスタブの中でこそと体を洗う事は苦痛です。日本式の手拭や垢すり手拭いなどありません。シャワーが固定式かホース付きかどうかも大事な事です。

サンフランシスコのJタウンにあるホテルは日本式の露天風呂を備えた部屋があって予約を取るのが大変なほど人気がありますし、私が20年来利用しているディズニールンド近くのフルキッチンの滞在型ホテルのスイートにも和式の浴室があり大変な人気です。部屋の掃除やタオルの交換は毎日してくれますし、週に2度のシーツなどの取り換えサービス付きで月額25万弱です。このホテルは、朝食付きで生玉子や納豆、海苔、一夜漬などの和食もあります。また、夕方からの Happy Hour にはビールやワイン、おつまみやバーベキューなどのサービスもあります。

この夏お邪魔した Salt Spring 島の B&B は日本人経営のものとしては、部屋も広々して綺麗で完璧な設備ときめ細やかなアメニティに感激でした。

日本人経営の B&B は、おしなべて部屋も狭いですが、ここは高級コンドにも劣らない広さの上に、10 エーカーも敷地があり、海や島々を一望に見下ろせる上に、オーナー手作りのオーガニック野菜も豊富でした。

食堂付きのフルキッチンですから、もちろん自分で食材を持ち込んで料理も出来ます。これで60CA\$は割安だと思います。

私達は、色々な国の滞在先に知り合いをつくって所帯道具の一式から履物、書籍や地図、衣類などの生活用品を預けてあります。毎回日本から持ち込む必要がないように。

部屋の選定には十分な事前チェックが必要です。値段で決めるのではなく、内容を十分吟味して契約をする事です。紹介者や業者の云う事も鵜呑みにせず、見取り図、写真などで納得できるまで確かめましょう。やはり内容が充実したコンドやアパートはそれなりの負担を覚悟して快適に過ごす方が賢明と言えるでしょう。

ガイドブックは、参考にするだけで当てに はいけません。執筆者が全部現地に行って確かめてはおらずフリーターや現地情報の切り張りで本をつくっている所も多いからです。私の知り合いの Longstay 作家を自称している女性なども、一度も行ったことも無いのに「悠々 x x 暮らし」などとタイトルを付けた本をいくつも書いて (他人に

書かせて) 読者を欺瞞しています。最近こんなアドバイザーは珍しくありません。

数多ある Longstay の本よりも、クラブ会報の会員のレポートの方がはるかに正確ですし、生情報としても役に立ちます。

また、最近クラブ内の一部には安上がり競争みたいな傾向がありますが、ケチればそれだけのことしか期待できないと覚悟するべきです。

2) 滞在先で友達をつくる

これは Long Stay を充実して過ごすためにはとても大切な事だと思います。

もともと、Long Stay は個人旅行ですから、全てを手づくりでしかも自分流に気楽にやる事です。その事は同時に全てを自己責任でやるという事にも繋がります。

そのためには、滞在先で良い友達をつくるという事が、充実した Long Stay をするためにとても役立ちます。

良い友達が出来れば Long Stay の中身も濃くなりますし、楽しみや行動半径も倍増します。私も30年余りの Long Stay で多くの国に数え切れないぐらいの友達が出来ました。利害関係のない友人ですから、お互いに親身になって助け合い相談し合えます。中には御子弟を日本に留学させられて私の家でお預かりした友達も何人かおります。こうなると、もう親戚以上の間柄になります。

その為には矢張り必要最小限の滞在先の言語を理解するように心掛けましょう。

私は、語学という言葉があまり好きではありません。言葉は学問ではないからあえて「学」などと付ける必要はないように思います。

ブローケンでも、ボディー・ランゲージでも構いません。要は、いかに相手とうまくコミュニケーションをとるかの問題です。私の家内などは、片手に英会話のハンドブック、片手にハングルの本を持ってカナダ在住の韓国人の奥様と英語、日本語、ハングルにボディ語を加えて結構巧みにコミュニケーションを取っています。

良い友達になれるかどうかは、言葉が巧みなだけではなくて、たとえ片言でも誠心誠意コミュニケーションを図って心が通じ合えるかどうかだと思います。特に、女性の場合はご主人の後ろにばかりいるのではなくて、自分で積極的に友達づくりをすることで、Long Stay の楽しさが驚くほど拡がります。

「あそこに行きたい」から「あの人達に会いたいから」になったらそこでの Long Stay は本物だと言えるかも知れません。

3) その国の人間になりきる努力を

日本と違って多くの国には様々な人種が同じ国民として一緒に生活しています。カナダのようにイギリス人とフランス人が西と東に住み分けて二つの国語を持っている国でも、数え切れないほどの民族がそこで生活しています。モザイク国家と言われる所以です。

私達 Long Stayer はせめて滞在中はその国の国民になったつもりで生活しましょう。台風並みの団体旅行では味わえない経験が Long Stay なら出来るのですから。

私は、多くの国の友人達から「日本人は取りつきにくい」とよく言われてきました。

笑顔を見せない、何を考えているのか解らない、全てを自分の物差しで測る、友好的でない、唯我独尊の云々と、沢山のクレームを戴いて来ました。

確かに私たち日本人は彼らから見るとつき合い難い民族に見えるのかも知れません。表情が貧しいかも知れません。笑顔が乏しいかも知れません。でも、Long Stay 中は変身しましょう。思い切ってオーバーだと思われるくらいにポーズを取って相手に接しましょう。そうすれば、思いがけない出会いに恵まれるかも知れません。

ホテルでも、旅行先でも、買い物の際にも臆せず自分ではオーバーだと思われるほど大げさに演技しましょう。

どんな国でもどんな時でも必ず最後に「Thank you」を付けてにっこり笑う事を心掛けてください。「Thank you」はどここの国でも使える国際語です。自分でも驚くような視界が開ける筈です。

当たり前ですが、それぞれの国にはそれぞれ法律やきまりとしきたりが、それぞれの民族にはそれぞれの習慣や風俗、文化や歴史があります。宗教やしきたりも民族によって異なります。「日本じゃあこうだけれど」は禁句です。

私は Stay 先で「お前の宗教は？」とよく聞かれ、少しばかり良心の呵責に捉われながらも平気な顔をして「仏教」とウソを答えます。日蓮上人と関わり深い家に生まれ、カトリックの大学を出ているのに実ははっきりとした信仰を持って来た訳ではありません。外国では、宗教を持っていないという事は少し恥ずかしい事なのです。タイやマレーシア、ネパールやブータンなど、宗教が国民生活に密着している国は政情や治安も安定していました。最近は何々ありますが・・・

日本人としての目線で考えないで、滞在先の国民に、その民族になったつもりで物事に接してみる努力をしましょう。その国の人達がどんな生活をしているか知る努力をしましょう。必ず、新しい発見がある筈です。

どこの国でも合掌は大きな武器になります。私はいつもそうするように心掛けています。何かをしてもらった時、手を合わせて感謝の気持ちを表しましょう。言葉は要りません。相手も自分も清々しい気持ちになれます。

4) 緊急時の対応策

長い滞在中には色々な事が起きます。

緊急時の対応策について、現地に到着したらまず確り確かめておくことをお勧めします。

- A, 火事の時の緊急連絡先。
- B, 救急車の呼び方
- C, 警察への通報方法
- D, 領事館や大使館への連絡方法

日本では119番や110番ですが、その国によって異なります。また、救急車は有料な場合が多いので、値段も調べておきます。警察の対応も日本のように迅速にしてくれるとは限りません。国によってはチップを平然と要求するような所もあります。

一方、ニュージーランドのように救急病院で手当てを受けても殆ど無料の国もありま

す。私も、昨年、日本から呼び寄せた娘が発作を起こしクライストチャーチのメディカル・センターでお世話になり、薬のアレルギーを知りましたが、診察、治療費は一切かかりませんでした。

回復後、ドクターに危なく死ぬところだったと聞かされ驚いた経験があります。Saeさんという現地在住の女性のお蔭で何とか滞在を続けることができました。

持病を持っている人は、病名や平素飲んでいる薬等について出発前に掛かり付け医からカルテとともに書いてもらいましょう。今は英文でほとんど通じます。

また、病状を詳しく訴える事はなかなか難しい事ですから、日本語の通じる病院医師なども予め調べておくことです。オーストラリアのように24時間日本語対応の医療施設があるところは兎も角、現地の日本語新聞社、日系人会の他、イエローページなどで探すことができます。

医療費は現地で支払っておいて帰国後保険金を受け取る事も出来ますし、カード会社に保健請求の手続きをする事もあります。

旅行保険証や、健康保険証も忘れずに持参しましょう。

クアラランプールで家内がひったくりにあつて、ハンドバックを取られ、現金やカードなどみんな盗られてしまいました。警察は通り一遍の調書を取るだけで何をしてくれるのでもなかったのに対し、Diners Clubは翌日シンガポールからわざわざ臨時カードを届けてくれた上に、現金も必要だろうからいくら用意しましょうかと云ってくれました。

カード会社もいろいろありますが、Dinersは断然対応が早いと思いますし、差しさわりのあるかも知れませんが、JCBなどは使えない国も多く国際的にはマイナーだと言えます。カードはDiners,VISA,Mastersの3つがあれば大抵間に合います。ただし、Dinersはカナダのように使用できる所が限られている国もあります。

ついでに、カードに付随している保険についても調べておきましょう

5) 現金は必要最小限に

大量の現金を持ち歩く事は禁物です。

海外旅行にはT/Cが安全でよく使われますが、余り小さい金額のTCを沢山持ち歩くと面倒ですから、1万円単位ぐらいのTCが良いでしょう。

今日では、カードがあれば殆どの国で間に合いますが現金引き出しの際、暗証番号を3回間違えるとロックされて以降の使用が出来なくなります。この場合日本の取引先の銀行に連絡して解除してもらえば元に戻すのは簡単です。地域にもよりますが、citi bankのような多くの国にネットを持つ外国の銀行を使うと何かと便利です。

日本人が海外でひったくりや置き引き、泥棒に合う率が極めて高いのは、沢山の現金を持ち歩く事に原因があります。当然ですが現金を財布に入れて他人の面前で財布から現金を取り出すようなことは、ここにお金がありますと言っているようなもので極めて危険です。

ハンドバックを手でぶら下げたり、肩に掛けて歩くのも禁物です。少々恰好は悪いか

も知れませんが、肩から反対の脇の下まで斜めに掛けましょう。どこで狙われているか解りません。現金を盗られたら、まず戻らないと諦めて下さい、盗られた自分が悪いのだと。スリやひったくり、置き引きなどはとった人間から次々にリレーされるのが通例です。見つかる見込みはまずありません。

もう、20年以上前ですが、NYで急逝した社員の遺体を引き取りに行つて病院の食堂にかばんを置き忘れてパスポートや航空券も皆入れてあつたので途方にくれて領事館やJALの営業所に再発行をしてもらつて連絡をしました。一両日してJALから連絡があつて、あるアメリカ人が拾つて家に持ち帰つてゐるという事でした。

お花を沢山持って低所得者用の市民アパートのその家を訪ねると、のぞき窓からのぞいていた黒人親子が飛び出して来て「ああこの人だ」と言つてパスポートを開いて持つてきました。小さい子供達が5人ほどいたので、ちょうどクリスマスも近づいていましたから後でお菓子や玩具をいっぱい詰めて届けました。その後、何年間かこの親子とは文通を重ねました。

また、マイアミの水族館でイルカやクジラのショーを見た際、ショルダーバックを席に忘れて来てしまい、会場を出てから気付いてオフィスに行つたところ、現金が入つていたらまず戻らないと言われました。

それでも諦めきれず、夕方再び事務所に行つて確かめたところ、ショーが終わつた直後に観客の一人がハンドバックを届けに来たが、係員が交代時間だったのでそのまま事務所に放置されていたとの事で無事手元に戻つて来ました。

これらは何れも奇跡的な事ですが、一概にアメリカは駄目だなどと決めつけてはいけなと反省した次第です。

ついでながら、飲食やタクシーを利用した際、オセアニアやアジアなどを除いて多くの国ではチップを支払うのが普通ですが、この習慣がない日本人はチップの払い方が下手です。

一般的には計算書の15%、あるいはTAXの2倍が相場ですが、日本人には予めチップを含めてBillを持つて来ることもありますので、計算書をよく注意してチェックし、2重に支払わないようにしましょう。

香港など東南アジアではしつこくチップを要求する国がありますが、これには応じない事です。また、物乞いに小銭をやる事も禁物です。一人にやるとぞろぞろと大勢に付きまといわれて動けなくなります。

6) 入国時の申告はきちんとする

多くの国では防疫上の理由や自然生態の保護の観点から、動物、植物類に関して厳しいチェックをするようになってゐます。

北米、オセアニアなどでは特に厳しく規制されてゐて、もし無申告で持ち込み規制品が見つかった場合、多額の罰金が科せられるほか、事と次第によっては犯罪者として取り扱われます。こうなると、Long Stayも何もあつたものではありません。

一度税関で捕まるとコンピュータに記録され、要注意人物の扱いを受ける事になって毎回荷物検査をされる羽目になります。

随分前の事です、和食党の私は例によって生わさびを茶筒に入れてアメリカに持ち込み LAX の空港で見つかってしまいました。別室に連れて行かれ色々問い質されました。罰金刑を科せられるところでしたが、たまたま係官の一人が日本通で寿司大好き人間だったようで、自家用に使用するだけで決して栽培など出来ない代物であること、全くの清浄栽培だから病虫害の恐れなどない事を説明して何とか無罪放免にして頂いた事があります。

伊豆生まれで築地育ちの私にとって、粉わさびでお寿司を食べるなどという事は屈辱でさえあったのです。

今は、幼馴染が本物の山葵のすりおろしたものを商品化することに成功して生わさび疑惑は持たれずに済むようになりました。

オセアニアも植物類の持ち込みには厳しい目を光らせています。割り箸や、楊枝なども持ち込み禁止だと聞いた事があります。

Long Stay は長滞在になりますから、様々な食材や、加工食品を持ち込みたいものですが、滞在する国の規制をよく知って入り口でひっかからないようにする事です。

何年前か前、他の会の幹部の方ですが、キャメロンなどマレーシアで Long Stay を続けていると自分がケチになるような気がすると言われておりました。タイなどでも同じことが言えるかも知れません。ステーキ・ディナーを食べても 4～500 円で済むのですから。よく考えてみれば、夕食に 1 万も 2 万も平気で使う日本人の方がどうかしているのかも。

Great Vancouver, Richmond のはずれの Steveston で出会った現地に住んでおられる日本人のご高齢者のお宅に招かれてお茶を御馳走になった際、日本の恥部や悪い所について話した私に対して「でも、世界一食べ物が美味しいじゃありませんか」と言われた言葉がずっと心に残っていて、今回、その方の為に家内はいくつかの日本の食べ物を持参し、旧交を温めました。

余談ですが、ホノルル空港で麻薬捜査犬に反応されて別室に連れて行かれ、取り調べを受けた事があります。

勿論、麻薬など持つてはいなかったのですが、日本を発つ前に我が家の犬をからかったのでその匂いが衣服についていて税関の雄犬が反応したとわかり、係官と大笑いした事があります。何れにせよ、別室行きはご免蒙りたいものです。

7) 外国での自動車運転

Long Stayer の多くが滞在先でレンタカーを借りて行動半径を広げます。定食コースを巡る団体旅行などでは味わえない Long Stay の楽しみの一つです。

オセアニアやアジアの国々のように日本と同じ左側通行の国もあれば、北米のように右側通行の国もあります。基本的に道路標識は万国共通になりつつあるとはいえ、やはりそれぞれの国で独自のルールや標識を作っているところもあります。同じ左側通行でも、ニュージーランドなどでは交差点のロータリーの廻り方などに優先順位の違いがありますし、左折や右折にもその国独自の決まりがあります。

アメリカなどいくつかの国では日本の免許証の同時提示を求められますので忘れず

に持参しましょう。

実は国際免許証というのは正確には運転免許証ではなくて運転許可証なのです。**License**ではなくて**Permit**なのです。

私も、10年以上前ですが、ハワイでレンタカーを借りる時、予め予約はして行ったのですがホノルル空港のレンタカー会社で日本の免許証の提示を求められ、持参していなかったため借りられず慌てて日本に連絡して送ってもらったことがあります。日本の辞書を引くと、**License**と**Permit**と両方を書いてありますが、その国によって、その会社によって解釈が違うようです。

なお、最近では、日本の運転免許証だけで借りられるところもいくつかありますが、やはり国際免許証も併せて持参した方が良いでしょう。勿論、運転の際、パスポートの携帯も忘れずに。

東南アジアの国は、おしなべて運転マナーが劣悪です。日本人には不向きと言って良いでしょう。

以前、台南でレンタカーを借りて数日間かけて台北まで来た事がありますが、2度とここではハンドルを握りたくないと思いました。香港やフィリピンなども大同小異ですが、死に物狂いの運転です。マレーシアのように65歳以上はレンタカーを貸してもらえない国もありますが、出来れば東南アジアでの運転はしない方が賢明だと思います。各種の保険をフルカバーすると結構な金額になりますから、最近は保険を掛けない人が多いようですが、いざという時の為に保険は掛けておくべきだと思います。自損事故なら仕方ないとしても、事故に巻き込まれると大変な事になります。

万が一事故になっても、決して謝らない事です。日本人は自分が悪くなくてもすぐ謝るから付け込まれますし、良く解らないのに「Yes」と言うのも禁物です。外国では、毅然とした態度を取ることが大切です。

私はアメリカで何回も交通違反を犯して捕まった苦い経験があります。

日本と違って多くの先進国ではパトカーは一人の警察官しか乗っていません。メキシコの国境からカナダまで続いているフリーウェイ5番などは、大変快適な走行が出来ますが、同時にスピード違反の取り締まりの重点路線です。

地上だけでなく、空から飛行機でチェックをしていたり、最近は無線装置で取り締まりをやっている事もあります。

捕まるとまず停止を求められます。そして窓を開けて片手を天井に付けてもう一方の手で免許証の提示を命じられます。それに従わないと、あっという間に沢山のパトカーに取り囲まれてしまいます。免許証を提示する際、取締官からピストルを突き付けられることもしばしばです。ダッシュボードなどから免許証を取り出すような振りをしてピストルなどを取り出す事を防ぐ為ですが、決して気持ちの良いものではありません。

麻薬や、酔っ払い運転の疑いが少しでもあると判断されたら両手を後ろにして手錠をかけられます。違反の重大さによっては、警察に連行され、まずは留置所に入れられて裁判を受ける事になります。

その間は大部屋ですから、色々な犯罪者がいっしょくたに同じ部屋に入れられます。最低でも、2泊は覚悟しなければなりません。その間、同室の犯罪者（この段階では容

疑者) 達から言い寄られて、出所したら友達にならないかなどと持ちかけられて閉口した事もあります。こちらは交通違反で逮捕されたのだからと言っても相手は麻薬や殺人容疑で捕まった連中もいます。

現地の人達と接しようと言いましたが、これらの連中は例外です。折角の **Long Stay** もこうなったら台無しです。裁判が終わると刑量が決まり罰金や労働の処罰が言い渡されます。道路沿いで掃除や作業をやっている人達の多くは判決を受けた違反者です。1日50ドルぐらいの報酬を罰金の代わりに支払うのですから、結構な労働日数になります。アメリカやカナダでは交通違反でも簡単に手錠をはめられたりピストルを突き付けられたりする事がありますから、くれぐれも注意しましょう。

また、外国の交通違反取り締まりでおしなべて厳しいのが一旦停止義務違反です。日本では、1点ぐらいだと思いますが車社会の国では一旦停止はお互いの生命 safety の為厳しく取り締まられると考えて下さい。日本には余りありませんが **BUMP** というスピードを出さない様にわざと路上に凸凹を作っている所が沢山あります。こういう所はあちこちに警察官の目が光っています。単に一旦停止違反だなどと考えないでください。

それから、これは良い事ではないかも知れませんが、外国で交通違反で捕まったら決して下手な英語で言い訳をしない事です。たとえ相手の言う事が理解できても、英語は話せないという事で通す事です。私はこの方法で何回も放免してもらいました。パスポートぐらいは出さなくては行けません、重大な違反でない限り旅行者は大目に見られるようです。

障害者用の駐車スペースも絶対止まらない様にして下さい。例え個人の土地であってもハンデキャップのマークのある所に駐車して見つかったら高額な罰金を覚悟しなければなりません。

交通規則は、全てみんなの安全を守り秩序ある社会の為につくられているのだという事をしっかり自覚する事です。いい歳をして外国で私のように度々捕まるような馬鹿な真似はぜひなさない様に注意して下さい。

8) 原住民や先住民族との関わり方

折角の **Long Stay** ですから、それぞれの国の原住民や先住民族と是非お付き合いしてみましょう。LSC の会員の多くが訪れるアメリカやカナダ、オーストラリアやニュージーランドなどの歴史が新しい国は何れもイギリスやフランス、スペイン人などの植民地だった所です。

しかし、これらのどの国でもずっと昔から住み着いている先住民族がおります。彼らこそがその国の歴史をつくって来たのですが、現在は「保護」という美名に隠れて片隅に追いやられているのが実態です。

原住民や先住民族と言われる人達に積極的に近づいて下さい。きっと新しい発見があります。

異論がある事を承知の上で言えば、これらの植民地や租借地から新しい国家を作ったイギリス、フランス、オランダ、スペイン、ポルトガルなどは、土足で他人の家に上がり込んでいつの間にか横座に座って胡坐をかいているようなものです。特にイギリスは

世界中に植民地をつくって当時の開発途上国を悪く言えば食べ物にしてきたことも事実です。

今、民族争いの典型になっているイスラエルとユダヤ人にしても元はと言えば新しい国を造ると唆したイギリスに大きな責任があります。

オーストラリア、ニュージーランド、などのオセアニアの国々を始め、アメリカやカナダ、香港、シンガポール、ニューカレドニアや南太平洋の島国など数え上げたらきりがありません。

現在は、それぞれが独立国家としてイギリスなど母国の支配下から脱却していますが、考えてみれば当たり前の話です。

これらの国々で先住民族に接し、彼らの文化や歴史を知る事はとても興味深い事ですし、本当の意味でその国を理解するためには必要な事です。

アメリカやカナダにはインディアンと呼ばれる先住民族がいます。オセアニアにはアボリジニーと呼ばれる先住民族がいます。ベトナムや台湾にも山地人と呼ばれる民族がいます。中国にも四川、雲南、貴州省などに沢山の少数民族がすんでいます。日本のアイヌ族は先住民族ではなくて、インドネシア辺りから北上して北海道に辿り着いたと言われますので、これは少し別に考える必要があるかも知れません。

幾つかの例をあげましょう。

例えばカナダの先住民族です。彼等は主として狩猟と漁をして生活して来ました。保護区という名の元に決められた地域に集団で暮らし、家や生活費（一人当たり月額500ドルほど）を与えられますので、仕事もせず朝から酒に浸るような生活をしている事も事実です。

Vancouver の郊外、スコームッシュから20マイルほど山の中に入った所に彼等の保護区があります。アラスカの原住民が鯨を捕獲する事を許されているように、カナダの原住民は1年中サケの捕獲が許されています。

彼等は朝からトヤに集まり歌を唄いお酒を飲んで鮭が網に掛かるのを待ちます。そんな彼等と交流を持って初めて本当のカナダの一面が解ったような気がしました。

「あの保護政策は、実はカナダの先住民族を早く滅ぼす為の欺瞞なのだ」と現地の親しい友人に言われてふと考え込んでしまいましたが、原住民のリーダーのデスペレートな言葉を聞いてハッとしたものです。「我々がどんなにもがいてもこの国はもう我々のものではない」 Vancouver のシンボルあのスタンレー・パークは実は政府が先住民族から借りているものなのです。ビールを手土産に彼等のトヤを訪ねて彼等が捨ててしまうとりたてのイクラを持ちきれないほど貰って帰ります。家内が夜通し掛けてイクラの醤油漬けを作り知り合いに分けて喜ばれます。

どうして彼等と親しくなったかと聞かれます。きっかけは簡単です。スコームッシュ川に仕掛けた彼等の網に掛かった鮭を追って来たアザラシが食べようとしますから、備え付けのライフルで撃退します。

インディアンのリーダーが「お前は鉄砲が撃てるか？」「一寸は」「じゃあ撃てみる」と308口径のライフルを渡され 200m程先の対岸目掛けて頭を出しているをアザラシ達をトントンで撃ち落とす。命中したアザラシは水中に沈み川面は真っ赤な血で染ま

ります。

「お前は、プロハンターか?」「いや、まぐれです」永年猪や鹿を撃って来た私には止まっている照準が大きい獲物をスコープを使って撃つのですから、簡単です。この一件で彼等と友達になれました。

話は変わりますが、台湾にも20近い先住民族がいます。高砂族と言われている人達です。

今日では台湾の共通語は北京語ですが、他に台湾語と言われる広東語と福建語が混じった様な独特の言葉や客家と言われる人達の言葉があり、更に20近い高砂族の人達の独自の言語や風俗がありました。

これらの山地人は、今ではマイナー民族になってしまいましたが、レキッとした先住民族です。アミ族の他、タイヤル族、プノウ族など20近い人種があつた狭い島に先住民族として住みついて来ました。台湾東部の台東の東にある小さな島蘭嶼島にはインドネシアかフィリピンから来たと言われる少数民族が住んでいます。この島は、フィリピンの最北の島からわずか40キロしか離れていません。天気の良い日はフィリピンが見えます。

この島の先住民族は、独特の言語と文化そして日本のお歯黒のような化粧をし、派手に彩色された丸木舟で漁をすることで知られています。

島の名前の通り、島内の岩場や原生林にはあの可愛らしい純白の小さな胡蝶蘭 *Phal.amabilis* がたくさん咲いて目を楽しませてくれましたが、こんな孤島にも自然破壊の波が押し寄せ今では殆ど見られなくなりました。

蘭に限りませんが、植物の宝庫東南アジアの野生植物は今、絶滅の危機に瀕しています。動物もそうですが・・・全て罪は人間にあります。

20年以上前ですが、私は仕事で台湾東部のある山地人の部落を度々訪問する機会に恵まれました。昔は人喰い族とか首狩り族とか言われて恐れられていた時代もあったと聞きましたが、実際に接してみるととても温厚誠実な人種でした。

ある日、珍しいものが手に入ったから、先生にぜひ御馳走したいと村長さんに誘われてそのお宅を訪ねてみると朝から大勢で宴会の準備をしていました。例によって大変な品数の料理が出て、焼酎のように度数が高い地の酒で少数民族の郷土料理を堪能しました。

「昔はいくらでも捕れたけれど、こんないい山猫や山ネズミは今では本当に貴重になりました」珍しいものと言うだけで、それが何かも聞かずに御馳走になった私は、その毛皮を見せられて愕然としましたが、一度胃袋に収まったものはどうにもなりません。それにしても美味かったと強がりと言って自分をごまかしました。中国やベトナムでは蛇や猫、ネズミ、猿からコウモリ、果てはアリクイまで食べますが、グルメとはゲテモノの別名かも知れません。

度重なる訪問でお互いにすっかり信じ合える間柄になりました。そんなある日、その部落の長老に相談を持ち掛けられました。「この部落の娘と結婚してくれないだろうか」私は吃驚したのは言うまでもありません。私には既に妻子がおりましたし、別に恋をした相手がいる訳ではありませんから。

その長老は言いました「長い日本時代に我々は日本人として過ごしてきた。先生も私達も同じ仲間です。私達の民族は近親結婚が進み存続の危機に立っています。優秀な日本人の血が欲しいのです」私はただ啞然とするばかりでした。

そう言えば、私が訪れるたびに親身になってお世話をして下さったあのお嬢さん達の眩しいほど耀いた瞳、決して生涯忘れる事はありません。

確かに日本が半世紀余り統治した台湾ですし、台湾人の多くは今でも日本時代の方が良かったと言いますが、私は台湾に自分の血を分ち合うほどの度胸はありませんでしたので丁重にお断りしたのを今でも覚えています。少しばかりの未練も含めて……その長老が亡くなったという知らせを受けたのはそれか2年目の冬でしたが、私は何か悪い事をしたような気持ちになりました。

台湾と言えば、東シナ海にぼっかり浮かんでいる澎湖列島も美しい島ですし軍の基地がある金門島は台湾領土と言っても大陸のアモイ市の一部で江の島ぐらいしか離れていませんし、太平洋に浮かぶ緑島は、監獄島と言われて政治犯などを収容する島でした。

当クラブには、鈴木さんと言う台湾通の方がいらっしゃいますが、九州程のこの島は、色々な意味で今後の **Long Stay** 先として有望だと思います。

どこの国でもそうだと思いますが、先住民族や原住民と言われる人達の中にこそ、その国の真の歴史や文化が息づいていると思います。

彼等は、今の体制の中ではマイノリティーになってひっそりと暮らしている事が多いのですが、本当は彼らこそが主役であるべきだと思います。

折角の **Long Stay** ですからこの機会にぜひその国の先住民と接して頂ければ大きな収穫が期待できるかもしれません。

9) 食べ物

食べ物ほどその国々でバラエティに富んでいるものはありません。

食文化と言う位ですから食べ物はその国の文化の象徴だと思います。

またイギリスの悪口になるようですが、そういう中で余りこれと言った名物料理らしきものが見当たらないのが、アメリカやカナダ、オーストラリアやニュージーランドなどのイギリスの影響下にあった国々ではないでしょうか。

元々、イギリス人は私に言わせれば食べ物音痴で味盲です。

食材もそうですが、味付けも塩、砂糖、オイルとお酢の他はフレーバーや香辛料を使う程度です。所謂、旨みの要素グルタミン酸、アミノ酸やイノシン酸、コハク酸系の調味料などはありません。いわば、昆布やシイタケ、鰹節や貝の旨味成分とは無縁です。

そういうイギリス人の影響を強く受けて来た国に美味しい料理を期待する方が間違っているかも知れません。

大英帝国なんて言っても、こと食べ物に関してはどうしようもないという感じです。そんな国々でも、素材はいいものが沢山あります。それを巧みに活用しておいしい料理を作る事も **long Stay** の楽しみの一つです。

私は、何処に **Stay** しても、日本人経営の本物の日本料理を出す店を探します。値段が高くても、美味しい本物を食べたいからです。

ニューヨークやロサンゼルスなどには東京や大阪の有名な日本料理屋が出店していますが、日本からの出店でなくても大きな街には何軒かの日本人経営の日本レストランがあります。

日本からすし種や食材を輸入している所は日本と変わらない料理を出します。よく西洋の家に住み、日本人の奥さんを貰って中国料理を食べるのが最高だなどと言われますが、これには私は少し異論があります。

西洋の家は兎も角、奥さんと料理はひっくりかえにした方が良いでしょう。素材の持ち味を生かすこと、盛り付けだけでなく器まで料理の一部としてこだわるなど、日本料理は世界一だと思っています。

日本では、インスタント料理しか出来ない男性も、**Long stay** なら時間もたっぷりあるのですから、奥様にだけ任せないで独自の日本料理に挑戦してみたら如何でしょうか。私達は、**Long Stay** をする際、常用の味噌、寺岡屋の醤油は勿論のこと、10割そば、稲庭うどん、築地のいつもの焼板のり、伊豆の手もみのお茶、ゆずの絞り汁、おろした天城わさび、山川の鰹節、幻のお米、京都の七味、和からし、天日干しの原木どんこ椎茸、博多の明太子、成田の鉄砲漬、手作りの紅生姜丹波の黒豆と金胡麻、愛用のだしの素等々必ず持参します。特に、天日干しのどんこ椎茸は、何処の国でもお土産としても大変喜ばれますので、春先までに多めに用意しておきます。夏はぬかみそも忘れません。これらの食材は残れば各地にいる友人達が喜んで貰ってくれます。

嗜好品では虎屋の羊羹と最中、濡れ甘納豆、あけぼののお煎餅、など外国では入手し難いものを持参します。1週間や10日間なら我慢できますが、2~3ヶ月となるとやはり本物が恋しくなるからです。

私はまた、いくつかの国では30年ほど前から家庭菜園を造って自分で日本の野菜の栽培をしました。**Long Stayer** の特権です。

青首大根やキュウリ、ナスは勿論、青シソ、茗荷、自然薯、八つ頭、セリ、生姜、白加賀梅、栗、富有柿から山葵まで栽培して、知り合いの日系人などに差し上げて喜ばれています。梅酢と赤シソで付けた梅干しも古いものは20年にもなります。紅生姜も梅酢で漬けますが絶品です。

家庭菜園まで行かなくても、カイワレ大根やもやしなどは部屋で簡単に出来ますし、滞在中に楽しめますのでお試しください。

今では日本の野菜が殆どありますが、当時はあまり手に入りませんでしたのでこれらの野菜や果物、それらの加工品は、現地の人達と親しくなる手だてとして有効でした。

愛用の焼酎は紙パックに入れた1.8Lのものを2本ほど持ち込みます。今は、日本酒や焼酎もたいがいの**Stay** 先で売ってはいますが、品数も少なく美味しいものはありません。

10) 夫婦共働きを

日本では何一つ家事をやらないご主人でも、**Long Stay** 先では別です。先輩の**Stayer** がよく**Long Stay** の一つの効用は夫婦仲が良くなることだと言っておられましたが、確かに言い当てて妙だと思っています。

何処のご主人も女房に先立たれる等とお考えになっておられませんかでしょうが私のようにある日突然配偶者の余命幾ばくもない事を宣告されて愕然とする事だってないとは言えません。

その日の為にとまでは言いませんが、**Long Stay** 中はほかにする事もないし、周囲に煩わされることもないですから、思い切ってご主人を酷使する事です。

女房つくる人、おれ喰う人なんて言っているご主人の人間革命をするのに絶好の機会です。**Danchu** なる雑誌があるように「男子厨房に入る」のが **Long Stay** の一つの特徴になったら楽しさも倍増します。

もともと、男性は料理の鉄人の素質を持っています。一流の板前やシェフはみんな男性です。本当は男の方が器用なのです。煽って使う事です。

家事に限らずあらゆる事を夫婦共稼ぎでやって下さい。日本と違って、ご近所や親せきの目を気にする事ありません。

私の **Long Stay** の仲間が出かける際、必ず手打ちうどんの道具を持って行き、滞在中何回も手打ちうどんを作って御馳走して下さい。滞在中の方がいます。

ある航空会社の機長はカレーライスづくりの名人です。2日も掛けてカレーを作ります。お金では買えないような絶品のカレーで、彼が来るのを常連達は待っています。

東京の一流寿司屋の板前顔負けの寿司を握る **Long Stayer** もいます。彼は日本からすしネタを持参したり取り寄せたりするほど、凝ってまさに職人の腕前です。最近は、滞在先で入手できる素材を使って寿司を握ることに拘ります。なにもプロの真似をすることだけではありません。

自分の家の「おふくろの味」や、あなたの故郷の郷土料理を少し勉強して自分独自の18番をつくる事もいいでしょう。要は、一つか二つお得意の料理を持つことです。

私の家内は田舎式五目ちらし寿司を得意としています。ドンコの椎茸だけ持参すれば、あとの具材は何処の国でも手に入ります。柚子の絞り汁が引き立て役を發揮します。紙のような薄い卵焼きや、いんげんの茹であげと味付けは母親から教わった彼女の秘伝です。

この五目ちらしを、レストランを経営している友人の奥様が店のメニューに加えたいと何回か講習会を開きました。

世界的な **SUSHI** ブームの今、握りや巻物だけでなく、こういう郷土の寿司もあってよいかも知れないと思いました。

そう言うのは失礼かも知れませんが、コリアンやチャイニーズの得体の知れない **SUSHI** もどきよりも日本の郷土、家庭料理の五目ちらしの方が余程美味しいかも知れません。ちなみにその友人のお店で試食会をやったところ、大好評でした。すっかりその気になった家内は自分もお店を出そうかなどと嘯っています。げに女はおだてると怖いものです。

60過ぎてリタイアし、**Long Stay** を楽しむようになったら、徹底して夫婦で何事も共同作業をするように心掛けてください。揃って **Long Stay** が出来るのはせいぜい10年か15年です。その内に夫婦のどちらかが病気になったりして、必ず **Long Stay** も儘ならなくなりますから。

この夏のカナダで家内がひどい風邪に罹って寝込んでしまいました。緊急事態で暫く主夫業に専念せざるを得なかった私は「オメーなんかいなくたって俺はちいーっとも困りゃーしねー。この通り料理だって何だってちゃーんと一人で出来るから」とボソボソ強がりを言いながら家事をやりました。

男なんてだらしないもので、奥様に先立たれるとクシャンとなって抜け殻みたいになってすぐ後を追うように逝ってしまうそうですが、女性はそうはゆきません。涙にくれているのは精々七七忌ぐらいまでで、後は水を得た魚になってルンルンです。私の母も父の死後、すっかり元気になって昨年 100 歳の天寿を全うして漸く逝きました。口では早くお迎えに来てほしいと言いながら・・・

私達クラブの会員も平均年齢は 60 をはるかに超えて、どんなにもがいても確実に人生の終着駅に近づいています。

夫婦は元は他人、どんなおしどり夫婦でも心中でもしない限り一緒に死ぬ事は叶いませんが、リタイア後の第二ステージを豊かに送る為にも現役時代以上に夫婦共働きが必要なのです。Long Stay は絶好の舞台です。

その点でも Long Stay 仲間は得難い貴重な存在です。利害損得の関係を持たず、共通の目的や夢を共有する仲間は他ではそんなに簡単に得られるものではありません。クラブでの出会いを大切に、お互いに誠心誠意お付き合いして実りある人生の終章を迎えたいものです。